

# 大阪大谷大学の学生によるまち歩きワークショップ等 報告会 まとめ

○日時：平成 29 年 1 月 21 日（土）午前 10 時～正午

○場所：青少年スポーツホール 2 階会議室

○参加者：大阪大谷大学人間社会学部学生 7 名・教員 2 名

市民【指針策定協議会、意見交換会】（5 名）、NPO きんきうえび（1 名）、  
けあばる金剛（1 名）、市職員【金剛地区活性化研究会】（6 名）、事務局（4 名）

○プログラム

- ① 学生による報告
- ② 質疑応答・意見交換会（三班に分かれて実施）
- ③ 発表

## □ 報告

H28 年 10 月 29 日（土）に実施した「まち歩き」での気付きや、地区の基礎データの分析等を基にした「金剛地区のまちの課題」、「まちづくりへの提案」等の研究成果について、学生の皆さんから報告をいただきました。



### （1）住みたいまちのイメージ

○まち歩きでの気付き

- ・自然が豊か。  
…でも、雑草が多い。
- ・大きな公園がある。  
…でも、居場所がない。
- ・きれいなまち並みで、落ち着いた雰囲気。  
…でも、活気がない。

まちの良さの  
一方で、そこが  
同時に弱みに  
なっている

○若者が住みたいまちのイメージ

業施設と生活利便性が充実し、  
「おしゃれ」なイメージがあるまち

商業施設の充実 コンビニ、雑貨屋、ショッ  
ピングモール、有名なお店…etc

人の交流 近隣住民との交流、コミュニテイ  
スペース、習い事の教室…etc

自然の豊かさ 自然がある…etc

生活利便性の向上 病院、銀行、都会に近い、  
バス…etc

## (2) 金剛地区のまちの課題

子育て家庭がまちにもとめるもの？

- ・交通の利便性
- ・リーズナブルで良質
- ・子育て家庭に優しい場所等
- ・教育が充実
- ・日常の買い物の利便性

高齢者世帯がまちにもとめるもの？

- ・日常の買い物の利便性
- ・要支援状態になっても暮らせる住宅
- ・老々介護世帯でも安心して暮らせる
- ・趣味や生き甲斐づくりができる
- ・防犯・防災など安心して暮らせる

- ・生活に必要な銀行・郵便局・コンビニなどが一部の場所に集中しているか？
- ・独居高齢世帯の買い物、商業施設などが一部の場所に集中しているか？
- ・生活に必要な社会資源が、気軽に利用できる場所にあるか？
- ・子どもの地域での遊び場など子育てにやさしい環境か？
- ・高齢者にとっての生活利便性が図られているか？
- ・子どもと高齢者がふれあう機会があるか？

## (3) まちづくりへの提案

公園の活用という観点から金剛のまちを考える

視点＝まちで歩く、動く、憩う…という前提に公園に安心して集まってもらえることが必要。

- ・まちの美化活動
- ・公園を中心に、まちに遊歩道の整備
- ・道路の舗装、バリアフリー化
- ・高齢者の健康運動講座
- ・防災・防犯・認知症徘徊救援支援訓練

- ・まち全体を挙げての定期的なイベント開催
- ・畑づくりと収穫祭（市民が運営し、収穫したものを分かち合うなど）
- ・バンド演奏など高齢者の趣味の発表会
- ・子どものスポーツ大会（高齢者も観客として参加）

- ・造園会社によるデモンストレーション庭園の設置
- ・健康遊具、アスレチック、小さな子どもが遊べる遊具、ゆったりと座って会話ができるベンチ等の設置
- ・トイレ、手洗い場の設置
- ・公園灯の設置
- ・ドッグラン、オープンカフェ等の設置
- ・若手芸術家の作品を展示

**地域の人たちの交流の拠点となるような魅力ある公園づくりをする。**

## □ 質疑応答・意見交換

学生の報告に関する質疑応答、「まちの課題」に対する住民・行政等からの情報補足とともに、「まちづくりへの提案」を具体化するための方策等について、各班に分かれて意見交換しました。

### ○一班

#### 【主なご意見】

- ・UR賃貸住宅は、若者向けに改装しても部屋が広い。  
⇒UR賃貸住宅の広さで4万～4.5万円なら、大学近くのワンルームで3万円の方を選択する。
- ・そもそも、大学に通うために下宿する人の絶対数が減少している。
- ・若年世代と言っても、学生と子育て世帯とではまちに求めるものが大きく違ってくる。
- ・子育て世帯にとっては、生活必需品が近くで手に入る事が重要では。  
⇒そのためにはベビーカーで移動できるように道路の整備も必要。
- ・金剛地区の場合、子育て世帯には駐車場の確保も必要では。
- ・公園、小学校の広さは、とても魅力的な部分である。  
⇒生徒数の減少に伴って、学校施設をもっと開放しては。公民館のような役割も果たすと良い。  
⇒学校は、問題が起きた時のために閉塞的になっているということも否めないのでは。

#### 【まとめ・発表】

##### 『社会資源の充実・活用を』

- ・若年世代、若者といっても、学生と子育て世帯では、求めるものが違う。
- ・子育て世代には、身近な商業施設、ベビーカーでの移動を想定した道路整備等が必要。
- ・公園、学校施設等の社会資源をもっと有効活用していくことが大切。

### ○二班

#### 【主なご意見】

- ・旧村エリアの住民は、まちに愛着を持つ人が多いが、金剛地区は、そのような人が少ないのでは。また、隣近所との積極的な交流を望まない人も多い。  
⇒いつかこのまちに戻ってきたいという愛着心を醸成するまちづくりが必要。  
⇒住民一人ひとりが思いやりの気持ちを持ってまちづくりに取り組むことが大切。
- ・若者が中心になってまちづくりが進めば、高齢者も期待感を持って見守れる。  
⇒若者の意見を住民みんなで共有できる場をつくる。
- ・町会（自治会）等は組織が疲弊している。校区単位等、現状の町会（自治会）等より少し大きな単位で組織をつくる必要がある。  
⇒防災や福祉等の目的別の組織の充実も必要。  
⇒やらされるのではなく、やりたい人が積極的に取り組める環境をつくる。  
⇒最初は、数人の仲間からスタート。団塊の世代の人が元気なうちにきっかけづくりを！  
⇒金剛地区では、地区福祉委員会が概ね校区単位で組織され、子育て世代から高齢者までを対象とした、さまざまな活動を行っている。
- ・金剛駅には集客できる施設等がなく、単なる通過駅になっている。

- ・グローバル化の時代において、外国人を迎え入れる体制等も必要。

【まとめ・発表】

『町会（自治会）等だけに頼らない新たな組織作り』

- ・町会（自治会）等任せでなく、思いのある住民が参画・連携し、まちづくりに取り組む。
- ・町会（自治会）等の枠を超えて、目的別にグループを分けて活動を行う。  
⇒この中で、若者が自主的に参加できるような環境づくりをする必要性がある。
- ・今回のような学生の意見等を聞く場が開かれても、地区の住民までは届いていない。  
⇒自治会だよりや掲示板を活用し、周知することが必要。

○三班

【主なご意見】

- ・地区内に公園はたくさんあるが、暗かったりするなど、使いにくい。
- ・子どもが遊ぶ声がうるさいという人もいる。  
⇒地区内に、何も気にせず、思いっきり遊べる公園が一つぐらいあっても良い。
- ・小学生と高齢者などの世代間交流が少ない。
- ・金剛バルなどのイベントの際には、多くの人が来場するが、それ以外の日は閑散としている。  
⇒イベントがあれば、若者から高齢者までたくさんの人が集まる。  
⇒金剛バルには約 3000 人が来場し大盛況だった。来年はもっと盛り上げたい。
- ・盆踊りもたくさんの人が集まり賑わっている。
- ・スタンプラリー等のイベントをしてみてもは。

【まとめ・発表】

『公園を活性化の起点に』

- ・公園で朝市やバザー等を開催し、人が集まる公園にする。  
⇒月1の頻度で寺池公園、中央公園から始め、徐々に広めていければ。
- ・何らかの機会をつくり定期的に公園に人が集めることができれば、そこがコミュニケーションの場となり、独居高齢世帯の見守りや公園の維持管理にもつながる。



以上